親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書（殷・西周・春秋・戦国・秦）			説文解字 秦篆	隷書（前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）			正字体 楷書	日本上代から平安初期
僻 ①	ヘキ ひがむ			包山楚簡	説文・人部						泉男生墓誌	干禄・序		瑚玉集
儒 常①	ジュ				説文・人部		曹全碑			元照墓誌	孔子廟堂碑	干禄字書		王勃詩序
										鄭義下碑	等慈寺碑	五経・人部		聾瞽指歸
償 常①	ショウ つぐなう		金文		説文・人部	居延漢簡		居延漢簡		王羲之 黄庭経	圭峰禅師碑			
儲 人①	チョ もうけ たくわえ				説文・人部		鄭固碑			高真碑	不空和尚碑			王勃詩序
優 教6常①	ユウ やさしい すぐれる まさる ゆたか				説文・人部	馬王堆	甘陵相残碑	智永千字文	集字聖教序	爨龍顔碑	雁塔聖教序			聾瞽指歸
								孫過庭書譜		天平墓誌				
允 人①	イン じょう まこと まことに	甲骨	金文	石鼓文	説文・儿部	馬王堆	孔彪碑			元詮墓誌	高真碑	干禄・序		聖毛筆奉献表
		甲骨	金文	郭店楚簡		馬王堆	熹平石経			諮議元弼墓誌	孔子廟堂碑	九経・儿部		
元 教2常①	ゲン ガン もと はじめ	甲骨	金文	侯馬盟書	説文・一部	馬王堆	三老諱字忌日記	居延漢簡	集字聖教序	元詳造像記	温彦博碑	干禄・序		王勃詩序
		甲骨	金文	睡虎地秦簡	段注・一部	敦煌漢簡		興福寺断碑		始平公造像	孔子廟堂碑	九経・一部		
兄 教2常①	ケイ キョウ あに え	甲骨	金文	侯馬盟書	説文・兄部	馬王堆	鄭固碑	淳化閣帖	王献之	元孟輝墓誌	温彦博碑	五経・儿部		王勃詩序
		甲骨	金文	睡虎地秦簡		武威漢簡				高真碑				王勃詩序
		甲骨	金文	包山楚簡										

【僻】干禄字書の序文と康熙字典の字体が一致しない。
【償】金文は『金文編』に掲載の例。「亻」がない。それなら「賞」ではないかとも思うが、「償」の初文ということらしい。
【儲】康熙字典には人部の16画にある。
【允】古代の字体を見ると、上部は「以、目」に関係するように思える。中国・台湾・香港の明朝体が微妙に異なる。
【兄】古代の字体が多様。人の手のギザギザは何だろう。金文に榊のようなものを加えた字があり、包山楚簡にもそれに似た字がある。

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
尼崎萬葉⑯	節用	人13		坊っちゃん								香港	中国・台湾
元暦萬葉②	庭訓往来	人14		こころ								干禄〈通〉	中国
												台湾	香港
	節用	人15		こころ								台湾・香港	中国
元暦萬葉⑱		人16		坊っちゃん								台湾 香港	中国
粘葉本朗詠	節用	人15		坊っちゃん									中国
	節用											台湾	香港
前田本北山抄	庭訓往来	儿2										北魏・鄭義下碑	中国
												台湾	香港
元暦萬葉①	節用	儿2		坊っちゃん									中・台・香
元暦萬葉①	女大学	儿3		坊っちゃん								殷・甲骨	中・台・香
												陰・甲骨	周・金文
												周・金文	戦国・包山楚簡

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書（殷・西周・春秋・戦国・秦）			説文解字 秦篆	隷書（前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
兇 ①	キョウ おそれる		古璽	睡虎地秦簡	説文・凶部	銀雀山竹簡				敬史君碑	泉男生墓誌	干禄字書	瑚玉集
				九店楚簡		馬王堆							
光 教2常①	コウ ひかり ひかる みつ	甲骨	殷金文	睡虎地秦簡	説文・火部	馬王堆	曹全碑	淳化閣帖	集字聖教序	鄭義下碑	九成宮	干禄字書	王勃詩序
		甲骨	金文	中山王方壺	説文古文	馬王堆						五経・火部(説文)	
		殷金文	金文	包山楚簡	説文古文	居延漢簡						五経・火部(隷変)	
充 常①	ジュウ あてる みたす みちる みつ				説文・儿部	馬王堆	敦煌漢簡	智永千字文	高宗 李勣碑	比丘法生造像	九成宮	五経・儿部	王勃詩序
						居延漢簡	石門頌			劉碑造像記	孔子廟堂碑(覆)		王勃詩序
先 教1常①	セン さき まず	甲骨	毛公鼎	春秋・金文	説文・先部	馬王堆	曹全碑	十七帖	淳化閣帖	楊大眼造像	孔子廟堂碑	五経・序	光明皇后 楽毅論
		甲骨	金文	睡虎地秦簡	段注・先部	武威漢簡							
		大盂鼎	侯馬盟書	包山楚簡									
兆 教4常①	チョウ きざし きざす			睡虎地秦簡	説文・卜部	銀雀山竹簡	西嶽華山廟碑		唐 高宗 李勣碑	敬史君碑	九成宮	干禄字書	王勃詩序
				包山楚簡	説文古文	居延漢簡				元定墓誌	張去奢墓誌		
										元遥妻梁氏墓誌	等慈寺碑		
										檀賓墓誌	唐 殷玄祚 契苾明碑		

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒四号	夏目漱石 坊っちゃんこころ	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
兇 二本紀 竟宴和歌	節用	兇 儿4	兇				兇					兇 干禄〈通〉	凶 中・台・香
光 元暦萬葉①	節用	光 儿4	光	光 坊っちゃん			光	光	光	光	光	光 干禄〈通〉	光 中・台・香
充 元暦萬葉10													
充 関戸本朗詠	節用	充 儿4	充	充 坊っちゃん			充	充	充	充			充 中国
												充 台湾	充 香港
先 粘葉本朗詠	節用	先 儿4	先	先 坊っちゃん			先	先	先	先	先		先 中・台・香
兆 尊円親王	節用	兆 儿4	兆				兆	兆		兆	兆	兆 干禄〈通〉	兆 中・台・香

【兇】干禄字書では「兇」を〈通〉とし「凶」を〈正〉としている。中国でも「凶」を用いる。
【充】咎なし点がつくことがある。
【兆】卜部にある字だが説文解字の他に「卜」のある字はみえず、古代から現代まで書かれてきた字体は、説文古文の字体に近い。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書（殷・西周・春秋・戦国・秦）			説文解字 秦篆	隷書（前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
克 常①	コク かつ よい	甲骨	大克鼎	郭店楚簡	説文・克部	馬王堆	馬王堆			高貞碑	孔子廟堂碑	干禄字書	聾瞽指歸
		甲骨	利𣪘	中山王方壺	説文古文	馬王堆	史晨後碑						
					説文古文	馬王堆	劉熊碑						
児 教4常①	ジ ニこ	甲骨	殷金文	睡虎地秦簡	説文	馬王堆	武梁祠画像	十七帖	喪乱帖	鄭長猷造像	智永千字文	五経・儿部	聾瞽指歸
兒 人②	ゲイ ジ ニこ	甲骨	金文	睡虎地秦簡		敦煌漢簡				穆玉容墓誌	倪寛伝贊		聾瞽指歸
兎 人①	トう うさぎ	甲骨	甲骨	金文	説文・兔部	馬王堆	熹平石経				道因法師碑	龍碑造像記	聾瞽指歸
兔 ②		甲骨	甲骨	上海楚竹書									
兔		甲骨	甲骨	睡虎地秦簡									
免 常①	メン まぬかれる ゆるす		金文	睡虎地秦簡	段注・免部		正始石経			太妃高造像		干禄字書	
兔 ③				睡虎地秦簡						金光明経2			
党 教6常①	トウ なかま			戰国・金文	説文・黒部	馬王堆	居延漢簡			高貞碑	契芯明碑		聾瞽指歸
黨 ②				睡虎地秦簡	段注・黒部	馬王堆	乙瑛碑						
兜 人①	トウ かぶと				説文・兜部	居延漢簡				朱善思造塔記	房山雲居寺石経	干禄字書	聖武天皇雑集
兜 ④					段注・兜部					魏霊蔵造像	伊闕仏龕碑	五経・儿部	

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典1716年 部首・画数	弘道軒四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
粘葉本朗詠	節用	儿										康熙古文	克 中・台・香
		古文										康熙古文	漢・居延漢簡
		古文										康熙古文	
元暦萬葉①	節用	儿6		こころ	明治の漢字					×		干禄〈俗〉	儿 中国
元暦萬葉①												西周・金文	兒 台湾・香港
類聚古集	再板農業全書	儿6		坊っちゃん	明治の漢字(本字)							康熙〈別字〉	兔 中・台・香
	節用	儿5		こころ	明治の漢字(許容字)								
					陸軍〈正体〉								
	節用	儿5		こころ						×		干禄〈通〉	免 中国・台湾
	算法地方大成												免 香港
尊円親王	庭訓往来	黒8		坊っちゃん	明治の漢字							戰国・郭店楚簡	党 中国
		儿8		坊っちゃん	陸軍								黨 台湾・香港
色紙法華経⑧	節用	儿9										干禄〈通〉	兜 中国・台湾
												五経〈訛〉	兜 香港

【克】説文解字の字体が楷書や明朝体に合致しない。

【児】上部の「臼」を早書きしてくずすと「旧」になる。「兒」は「儿」部の6画。

【兎】甲骨文にはたくさんの例があるが、6種類だけ紹介。金文の例がみえない。「兎兎兔兔兎兎兎兎」などたくさんの異体字があるが、もっとも多く書かれてきたのは「兔」。五経文字では「兔」の最終画が点ではなく横線。康熙字典では「兔」を本字とし、「兎（兎ではない）」を俗字とする。「兎」は中国では明代に書かれはじめたようだ。江戸時代は「兎」の使用例が多い。弘道軒が見慣れない字体を採用しているが漱石の字体も同じ。明治時代には普通に書かれていた字体なのかもしれない。驚いたことに文部省活字も同じ字体。

【免】説文解字の大徐本には不録で段注本で補われており「兔逸也」とある。当用漢字表の手書き原稿では「免」だったが、印刷されたのは上記の字体。さらに当用漢字字体表で変更された。

【党】「党」と「黨」は本来は別の字。

【兜】上部の「白」を、2分割した「臼(E＋ヨ)」で挟む異体字が漢代からある。楷書の「房山雲居寺石経」は「白」の下に「臼」を書く動用字。「白」を「北」で挟む字体もある。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書（殷・西周・春秋・戦国・秦）			説文解字 秦篆	隷書（前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
入 教1常①	ニュウ いる いれる はいる	甲骨	大盂鼎	侯馬盟書	説文・入部	馬王堆	熹平石経	智永千字文	王献之	張猛龍碑	孔子廟堂碑	干禄字書・序	王勃詩序
		甲骨	金文	侯馬盟書		居延漢簡							
全 教3常①	ゼン すべて まったく まったし まっとうする		戰国古璽	包山楚簡	説文・入部	馬王堆	張遷碑			元思墓誌	伊闕仏龕碑	干禄字書	王勃詩序
			戰国古璽	包山楚簡	説文或体	馬王堆	曹全碑				雁塔聖教序	五経・亼部	
				包山楚簡	説文古文	居延漢簡						五経（経典）	
八 教1常①	ハチ やや やつ やっつ よう	甲骨	金文	睡虎地秦簡	説文・八部	馬王堆	居延漢簡		集字聖教序	鄭羲下碑	孔子廟堂碑	五経文字・序	王勃詩序
		甲骨	金文	包山楚簡		馬王堆	乙瑛碑						
公 教2常①	コウ おおやけ きみ	甲骨	毛公鼎	石鼓文	説文・八部	馬王堆	禮器碑	十七帖		張猛龍碑		干禄字書	王勃詩序
		甲骨	令𣪘	睡虎地秦簡		馬王堆							
		甲骨	侯馬盟書	包山楚簡		武威漢簡							
六 教1常①	ロク むむい むつ むっつ	甲骨	𢦏鐘	石鼓文	泰山刻石	馬王堆	乙瑛碑	十七帖	王羲之・黄庭経	爨龍顔碑	孔子廟堂碑	五経文字・序	王勃詩序
			包山楚簡	睡虎地秦簡	説文・六部	馬王堆							
共 教4常①	キョウ とも	甲骨	金文	睡虎地秦簡	説文・共部	馬王堆	曹全碑	淳化閣帖	集字聖教序	弔比干墓文	雁塔聖教序	干禄・序	杜家立成
		殷・金文	金文	包山楚簡	説文古文	馬王堆						五経・序	杜家立成

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
元暦萬葉①	節用	入 0		坊っちゃん								秦・睡虎地秦簡	入 中国
													入 台湾・香港
粘葉本朗詠	農家調宝記	入 4		坊っちゃん						×		干禄字書（通）	全 中国・香港
												五経（訛）	全 台湾
元暦萬葉⑦	江戸方角	八 0		坊っちゃん									八 中国
												八 台湾	八 香港
粘葉本朗詠	節用	八 2		坊っちゃん									公 中国
	農家調宝記												公 台湾
													公 香港
元暦萬葉①	節用	八 2		坊っちゃん									六 中国・台湾
													六 香港
粘葉本朗詠	節用	八 4		坊っちゃん								周・金文	共 中・台・香
		古文										戰国・郭店楚簡	

【入】古代には「大」のような字体もあった。居延漢簡では「人」とかわらない書き方がある。
【六】泰山刻石と説文の字体が異なる。泰山刻石の「六」は「大」と字体が衝突する。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書（殷・西周・春秋・戦国・秦）			説文解字 秦篆	隷書（前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
兵 教4常①	ヘイ ヒョウ つわもの	甲骨	金文	睡虎地	説文・廾部	銀雀山竹簡	敦煌漢簡	大観帖	大観帖	張猛龍碑	孔子廟堂碑		瑚玉集
		甲骨	金文	郭店楚簡	説文籀文	馬王堆	敦煌漢簡			段志玄碑			
			金文		説文古文	馬王堆	孔宙碑						
具 教3常①	グ そなえる そなわる つぶさに	甲骨	金文	金文	説文・廾部	馬王堆	史晨前碑	儋近帖	儋近帖	元詮墓誌	伊闕仏龕碑	干禄・序	王勃詩序
具			金文	石鼓文		居延漢簡				張猛龍碑	王居士塼塔銘	九経・序	法華義疏
			金文	里耶秦簡									
			金文										
其 人①	キ それ その それ	甲骨	金文	石鼓文	泰山刻石	敦煌漢簡	熹平石経	十七帖	淳化閣帖	鄭羲下碑	孔子廟堂碑	干禄・序	王勃詩序
箕 段			大盂鼎	睡虎地秦簡	説文・箕部	敦煌漢簡	曹全碑						
丌			侯馬盟書	睡虎地秦簡	説文籀文	馬王堆	正直残碑						
亓			侯馬盟書	郭店楚簡	説文籀文								
			侯馬盟書		説文古文								
					説文古文								
					説文古文								

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典1716年 部首・画数	弘道軒四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
粘葉本朗詠	節用	八5		坊っちゃん									兵 中・台・香
	節用												
元暦萬葉	出世太平記	八6		坊っちゃん	教科書・俗					○			具 中国・台湾
				坊っちゃん									具 香港
粘葉本朗詠	節用	八6		坊っちゃん									其 中・台・香
粘葉本朗詠	庭訓往来	古文											
粘葉本朗詠		古文											

【具】中国の南北朝期以降は「具」ではなく「具」と書かれることが多い。干禄字書、九経字様、康熙字典、文部省活字、中国も「具」。

【其】泰山刻石にはあるのだが、説文解字には「其」では掲載されず、箕部に「箕」が掲載、古文に「其」がある。隷書に「六」に似た字体があり、康熙古文と合致する。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。